

憲法「検討の基本方針」提示

JPC 70th

クロニクル

第34回

chronicle

21世紀臨調〈2〉

■「赤澤メモ」

する旨の法律が成立。

21世紀臨調が発足した99年は、憲法施行50周年(97年)を踏まえ、国会に憲法論議の場を設けようという動きが本格化した年であった。7月29日、衆議院本会議において衆参両院に憲法調査会を設置

翌2000年1月20日、第147回国会において衆参両院に憲法調査会が設置された。国の基本法制検討会議座長に就任した21世紀臨調代表幹事・赤澤璋一は99年6月10日、7月2日の2度にわた



引しを改革を政治改革を
た亀井正夫。1992
年から2002年まで
社会経済生産性本
部会長を務めた。

・長期の日本
の政策・
法制上の課
題を論じ、
その延長線
上において

(いわゆる赤澤メモ)を提示。満場一致で運営委員の了承を得た。なお、「赤澤メモ」

については議論②あえて憲法の専門家を加えず、国民の目線で議論を組み立てようとした

月20日に「国民の権利・義務分野の改革」を公表(中間報告)し事実上活動を停止した。

って開かれた同検討会議事前会合において、

現行憲法の可能性と限

は21世紀臨調の発足総

の双方を包括的に検討

引してきた21世紀臨調

①当会議の場に護憲で

る、④国会憲法調査会

■三つの中間報告

21世紀臨調の「国の

みであった。

あるとか改憲であると

や超党派議員の活動と

た憲法・基本法制改革

基本法制検討会議」は

いである。

かといった先入観や特

連携をとりながら議論

の検討方針は、①憲法

02年2月22日に「外交

【参考文献】『生産性運

定のイデオロギーは持

とが共有し得る信頼感

のあり方にまで踏み込

・安全保障分野におけ

産性本部、2005年

ち込まない、②憲法を

ある憲法論議の土俵づ

んだ国の形の見直しを

を、2月28日に「統治機

／『平成デモクラシー』

議論するに当たっては

ある憲法論議の土俵づ

りを目指す——とい

う「検討の基本方針」

(講談社、2013年)

い、③各分野ごとに中

う「検討の基本方針」

言論界が同じテーブル

を、3